

俳諧古今集

下

837-2

俳諧資料カード

年代 天保8年

編者 (筆者) 徳子

書名 俳諧古今集 下

備考

(下垣内蔵)

続夜集

人の圖乃字は其字を以て思ひをのへ大和
うたむるにすてみ字よむをそそり流能ハナ七
文字にても依体平悟のうらりり日見其を得る業
者生ても其のあはれはくするの余情を当り中
そあはれそあめり月夜の遠きあはれ似く地をなごりて
核玉のまきく白く知あはれ此あはれをりて集乃
念核核和集といふあり

了保己年 見はらふ

一樓



梅室

空の飛鳥のほそくはたす梅樹
 水よりゆき 陽冬 一 梅
 交代の結実をみる細歩
 葉はあつとけはつとす
 梅のつぼみは 朝の月
 中をけし 梅 一 枝
 白奇も孫のうきおれ 梅
 梅の木はゆめをきく
 赤巾の枝のうきおれ
 ふし名梅の若流尻けり

室 木 梅 室 木 梅 室 木 梅 室 木 梅

けしあふくはたす梅樹
 出用空より梅 晴 天
 梅田乃けし梅のうきおれ
 古く先葉をみる梅 梅
 百の葉はあつとす 梅
 若梅のうきおれ 梅
 梅のつぼみは 梅
 梅のつぼみは 梅
 梅のつぼみは 梅
 梅のつぼみは 梅

梅 木 室 接 木 梅 室 木 梅 室 木 梅

舟のあそびを賞馬場の倉庫の西へ
 冬は落したる羽 第乃町
 春遠ひく指さくふはを振廻し
 料理のひまも醫者乃き物
 標うけの備置あはき洗呈橋
 行まふさるる月乃
 船中七秋のあそびをすう
 あのかのふゆと 藍のふゆか
 翁の鶴 伊市の鶴も 可なり
 奔走すきく 幸のありきぬ
 胸はけりりね 基ぬけえあはるんき
 持ててあへり 出や風屋 吹

室 木 橋 宮 木 橋 室 木 橋 木 室 橋 木

ちのちのちの掃七ふいつくあはる
 人々やんし 官を 出さる
 木 室

梅室 一橋 木木
 名十二白

一 楼

千を掃た町へはくくき春の月
 せらまきくをせし生七種乃き
 あの方棚ふ掃手あれとそせもあ
 ともありの橋々 ともうそはあ
 美用お毎日あそぬわくく 織
 軍文あうもあはつよく あは
 梅梁乃よんそあそてのむあふ小座
 木 室 橋 梅室 木 室 橋

橋 室 木 橋

本錦の袖をあすの仔を
 獲たて果をつまらわさき
 ぞを降り園庭にすまは
 来つさ乃むらへあらま
 山流さるゝ通ふそ川
 衣う川名をまどまき
 買ふさうそふう呈結
 三井寺にあらまき
 老きりげまき飯の曲
 晴かましきと柳乃雨
 此あまきさふまき
 波千々引けまき麻羽織

木 室 木 櫛 室 木 櫛 室 木 櫛 室 木

ち地しきり藤あね乃三井
 もりきりい日光まき
 秋まきり製のまき
 常あまきり
 衣五六冊まきり
 探骨乃まきり
 雀まきり生
 直のまきり
 十里四方まきり
 盆の月天龍川のまきり
 鳴てつまきり
 帷子のまきり

木 室 木 櫛 室 木 櫛 室 木 櫛 室 木

千木乃何本の光る舎も就
 貝ふけをまつまうかへる備生
 形も舟もくろくも高聲
 花乃やそりささるるに松竹
 雷はけくまのまのなれ

一樓 木木 梅室

名十二白

木木

折く梅持て出さぬはのふ
 日の暮はけり啼きさるる
 新去た出奥堂も移り来り
 多報談の末もあがり

木木 一樓 梅室

廣引も早退ある夢も月
 庭庭もなきはれはふく春
 ありくも天井まりり監りれ
 信人志もて子をア夢も
 乙町の籠もつまきあつた
 かいふきすたる小刻監り
 瓦あも白草へは何年やすれ
 附るも女似ぬあつた
 盆后も九月一を月秋
 をとくもつたはつた
 手かきもハ籠もつた
 光輝明の池もつた

木木 一樓 梅室 木木 一樓 梅室 木木 一樓 梅室

停止れ多し木のありかたれん
 毎日のうりく 余法のの 慧
 致くも蚕々人々菜々んよ
 酒造のんし言希いふり
 組乃降下 削らざる 糖屑
 吾々々々々々々々々々々々
 抄子より 桐油の幸たす
 迎材をば けりもちひさ
 梅も老も ありおあつて 呼
 二度も 二々々々 遠きさあす
 似寄る方 前々々 果腹とさき遠
 糸 字々々々 更科の月
 室 棧 木 室 棧 木 室 棧 木 室 棧 木

至あやう 本移り 色つく 陰々吹
 山雀飛つ 木部やわら 出る
 村より 子あつれをいぬ 古右執
 有難あり 心を 大 列
 麻ふく かん持て 筒底を 買歩り
 髪ハ 後後と 後習を 思
 急ぎて 急か 降も 急か けり
 あさ けり けり 梅 子 録
 采木 梅室 一棧
 各十二句
 梅をりに 出く 見付た 露久糸
 室 棧 木 室 棧 木 室 棧 木 室 棧 木

著札

有ゆりの心をあつらへてはるる葉を
 我のまのこぼれぬ出たをやはらぬ
 少の物にあはれも子にわりのを重く外
 次をそとへ小橋西へくきき橋
 一里出づ程行消すかきき橋
 橋ありあつたまはりあつたまはり
 若くは年をくまはれしはなれは
 夕飯の帰つたはしはなれは
 秋五亥をねて秋をくまはり
 秋をくまはり橋人くまはり
 凍るるもくまはり橋を足の下に
 凍るるもくまはり橋を足の下に

三萬 楓下 貨僕 林曹 秀外 葛洲 久藏 丁部 美花 之桂 駿鳥 寧子

晴中りの心あつてはるる葉を
 野やあつたまはりあつたまはり
 若くは年をくまはれしはなれは
 夕飯の帰つたはしはなれは
 秋五亥をねて秋をくまはり
 秋をくまはり橋人くまはり
 凍るるもくまはり橋を足の下に
 凍るるもくまはり橋を足の下に

赤守 露谷 青可 在例 教育 学笠 菊所 江月 東一 比古 飯雪 岱年

尾より腹へ沿へて五つ折をきく河内
 さまや折はほりしもあるや木の花
 ぬあまきこも赤く葉もむむありあ
 葉あつや葉あつ中のけりも水
 人あつのもはれもあつあつ着市
 ひともある戸口のまむはむとふ
 更しとも月傍あり水 ぬき
 いまうらな結とくさ結や藤月
 何れもあつさむさむのつまの月
 乙もやけつやへあつて粟田口
 とくすもろくさくさくさくさくさ
 ると年のすくさくさくさくさくさ

扇和
 松竹
 幽篁
 梅通
 福米
 春圃
 白兔
 假文
 無一
 二具
 斗圃
 呼牛

引通す瀬をたまたまききききき
 ちもけりあつてさくさくさくさ
 喉中より葉あつたつてれりあ
 初はゆやゆり合のよき葉の内
 葉より葉のうらむあつてけり
 ねつあつて伸けりけりや若の角
 ちもそりとも葉あつたつてれり
 あつてあつたつてれりあつてれり
 まあつ水 ききあつてれりあつてれり
 初もあつたつてれりあつてれり
 ちもあつてれりあつてれりあつてれり
 ちもあつてれりあつてれりあつてれり

可大
 春賦
 松五
 碓嶺
 文節
 萬里
 護物
 青圃
 今是
 東平
 古春
 若川

東の島のナヤヤシ 城入馬
標本すしむ日あつし似さうさう
魚川 岩船つるしとひけとさる
ま舟や 舟あな舟の所すさる
標しと 磯波もあやや比中
ゆか木ぬらみさくれろ手拍ふ
西りの日あつるか石料理人
年ありしと 慶うもなふりかふ
ふ せつしとせつしと 波干葉
あまのあま又遊べるまほひさ
崎の船たろと板や日のたま
上敷をめぐりて 標や極の花

魚山 英山 春路 兩堂 一宵 祇白 小圃 慈竟 得蓋 蕙立 都御 蕙山

出代のもろとと 標本履共
山吹や 岩あけて又つるしと
月ハ中夜をまていつわし 標
山吹さきの上まろと 標しと
折便りもまろとと 標しと
まゆめをともしとと 標しと
あつらむとと 標しと
人懐のまろとと 標しと
あまをともとと 標しと
これやとのまを 標しと
葉標もあつらふとと 標しと
おし水の中や 標しと

松溝 千輪 溪奇 柏樹 撰車 礪山 一萬 百慈 沙路 左標 傳四郎 茂推

野々子十人、杜乃、李、周、吳、張、
趙、孫、陳、周、吳、張、
孫、陳、周、吳、張、
置於のち、獨あつちや、けし、の、若
あんり、ま、ま、由の、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
舟の、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
甚、試、て、十、四、五、日、の、ま、ま、ま、
月、け、の、の、の、の、の、の、の、の、
の、の、の、の、の、の、の、の、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

惟草 卦龍 希了 石鼓 殘兄 麻定 龜得 槐儀 幻芝 孫山 青岐 孤米

藤つ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
郭、郭、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
依、依、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
光、光、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
叩、叩、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
半、半、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
何、何、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
半、半、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

小葉 戸籍 卓池 古器 振々 文淵 里谷 雪直 不及 貫魚 太拳

五月廿一日は氣候と云ふべきあり
秋多し後、のりく、秋井戸
水は揚る、秋、ついで、星、遠い
氣の、ついで、秋、ついで、秋、ついで、秋
秋、ついで、秋、ついで、秋、ついで、秋
秋、ついで、秋、ついで、秋、ついで、秋
秋、ついで、秋、ついで、秋、ついで、秋
秋、ついで、秋、ついで、秋、ついで、秋
秋、ついで、秋、ついで、秋、ついで、秋
秋、ついで、秋、ついで、秋、ついで、秋
秋、ついで、秋、ついで、秋、ついで、秋

双鳥 自樂 鳥津 野巢 萬比 大宮 手崖 眉岳 謝堂 史子 樸堂

秋の、ついで、秋、ついで、秋、ついで、秋
秋、ついで、秋、ついで、秋、ついで、秋
秋、ついで、秋、ついで、秋、ついで、秋
秋、ついで、秋、ついで、秋、ついで、秋
秋、ついで、秋、ついで、秋、ついで、秋
秋、ついで、秋、ついで、秋、ついで、秋
秋、ついで、秋、ついで、秋、ついで、秋
秋、ついで、秋、ついで、秋、ついで、秋
秋、ついで、秋、ついで、秋、ついで、秋
秋、ついで、秋、ついで、秋、ついで、秋
秋、ついで、秋、ついで、秋、ついで、秋

秋瓜 暉連 三番 栗舟 肯吉 吳明 松呂 大巢 多子女 笠露 流芝 樸狸

月よ空を照らしてうきうきと解の夢
うきうきと五里のたもぬ花さかり
是ていふ人なまあすのこころを
予ていふも中なりふたねもや孫のそと
睡をき居まふかりてあかしくを
田つねをきぬまありて業のこも
中しりりしうきうきの足ゆる中業外
業まをて木のまじりて知阿しゆ
中お宿のれ後口中つまふまきうき
二月ふりて海まきすしやわ月雨
風をきくも細き花さくまくれを
海を船中なりまくれまありてを

有舟 可一 月露 里樹女 野陽 點巢 駒竜 蓬宇

月よ空を照らしてうきうきと解の夢
うきうきと五里のたもぬ花さかり
是ていふ人なまあすのこころを
予ていふも中なりふたねもや孫のそと
睡をき居まふかりてあかしくを
田つねをきぬまありて業のこも
中しりりしうきうきの足ゆる中業外
業まをて木のまじりて知阿しゆ
中お宿のれ後口中つまふまきうき
二月ふりて海まきすしやわ月雨
風をきくも細き花さくまくれを
海を船中なりまくれまありてを

蘭所 三岳 大素 鼎左 恭里 五諱 柳絮 兩什 而后 遲派 卓島 休圃

大なる押さ積ありあるものなり
つふきはひびきり星出らるる氣
陰呂吹りぬの〜帯きゆるあがり
遊するはよふの〜切のふれはさ
影顔てふふ〜狂きぬる〜藤井
は〜つかり〜たたまけふ〜あき
結成る縁の度〜見有たり
と着し〜味もつや〜おぼのち
起〜く〜きふ〜氷の氷けり
妻〜つ〜り〜や〜や〜小瓶汁
大極ふ〜は〜む〜む〜す〜り〜た
形骸の〜ま〜え〜と〜と〜と〜けり

三省
曾夢
徐全
茶静
曾見
應々
叟古
可布
推鳥
氷角
墨桌
夢蝶

三就七中〜あり〜あ〜つ〜けり
隣町も〜たれ〜たれの影森と云
櫛華也〜と〜と〜生り〜相〜ある
抜扱するは〜と〜つ〜と〜大極哉
か〜ゆ〜や〜備〜る〜朱〜ぬ〜梅〜姫
あ〜〜の〜形〜ら〜ね〜り〜鈴〜々〜ま
本あり〜よ〜ふ〜き〜く〜ち〜と〜雀〜う〜わ
羽〜き〜や〜お〜人の〜類〜と〜立〜あ〜り
き〜く〜く〜〜〜〜と〜あ〜〜〜〜
あ〜あ〜れ〜の〜度〜と〜す〜や〜ち〜の〜を〜
と〜と〜と〜〜〜〜〜と〜と〜と〜と
扱極は〜と〜の〜ち〜けり〜さ〜の上

青路
斗違
四明
春節
米才
一哺
叢
斜道
一夢
鳥飢
南清
大極

大寺や花道つら—青の犬
いさゝか〜佛—おまやまをい入
かまはしひら〜まか〜もろ〜那
大寺の住持〜い〜ま〜

鹿太
茶田
一兆
西馬

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, mostly illegible due to fading and ghosting.)

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, mostly illegible due to fading and ghosting.)

追加

此青生来の能社

樓

園のふき月乃子きうありりけり

砂もさるるあを七 咄 立ち けり

ひよろさ細の入り物 賣 入

鹽乃 夜 取 けり、おけり

最在久手杖久手杖上書をさす

嘆 不 せ せ せ 梅 けり 筆 あり

悪猫のひら〜おれ〜り 害 取

い〜りかき〜り〜り 節 の 癖 あり

はれあはし〜り〜り 香の飯 置き

糖〜り〜り〜り 生 飯 置き

小圃
相 兩

兩圃
兩圃
兩圃
兩圃

研つけたる手斧をぬくは籠 屠
 水 粟 抄りて 曲る 麩 既
 一 傳るはくもたつぬる 雲の月
 弱き 角力乃 酒より 更くは 牙
 傍 悉くも 志く 守 羽 ありの 終 巻 け
 新 蘭 此の まい さい 日
 喉 中 今い 芥も 押 ぬ 美 義の け
 的 新 辰 けに 籠 子 を 新 子 たり
 空 位 とも 新 首の 幟 降 させ
 心 人の 懐 くる 葉 の け け け け
 其 峰 乃 果 中 今 見 きて 柳 たり
 履 子 たり の 生 け け け は く 虫

屠 籠 兩 圃 櫛 兩 圃 櫛 兩 圃 櫛 兩 圃 櫛

ひく 胸り 異 井の 仗 唐 へ 帰 け
 柳 あり 唐 へ 梅 名 原 の 井 子
 何 なるの 巻 け 志 せ ぬ 向 の とも
 火 葬 け 傳 へ たり とも の 立
 斧 傍 今 元 を 紀 志 とも 合
 面 肉 を とも 唐 乃 け とも け
 横 壁 の 川 を 新 海 空 新 新 月
 回 中 今 今 抄 け け 柳 の け け け
 浴 合 け け け け け け け け け
 志 子 子 豆 腐 は け け け け け
 星 匠 子 新 抄 け け け け け け
 吟 け け け け け け け け け

屠 籠 兩 圃 櫛 兩 圃 櫛 兩 圃 櫛 兩 圃 櫛

花のめ古く打たすきありく
ちくくぬくちききそむせもくすく

圃

其二

相西

本新能あちるまきもあけいへさうさう
ゆりくあしよ 然る 標新出
さきひりー様まうけえ縄きりて
まきのこま新管ふあけのう
紫新つらぬ後ま新ま新舟
二百十日を括れりて 見る
新後の歩来をひくちま買

圃 圃 圃 圃 圃 圃 圃 圃 圃 圃 圃 圃

世の侯の御てふえん ちまき
新毎り御あけつちまき御位
あけられをつらぬ舟のひまひ
砂波の十し取付すく証の香
樹新おりの新乃けれくち
豆の新御枝大枝の新新
標ひよ 標ひよを標ひよさむ
後のくつ月見るその月ひまき
ゆきありあけし標ひよ
升新茶茶の標ひよさむあり
畠の新ひりに田標ひよさむ
書たさく新ひよさむさむあり

圃 圃 圃 圃 圃 圃 圃 圃 圃 圃 圃 圃

かり落物乃清香月 井くくく
 内後客を 通す 内 庭
 唯よりよきは車柵行ふはあそ
 一ふしてつる集乃 丁ぬけ
 無多好ともぬ是後よすのり
 元々て獲りてはむ地を結
 るるけられた跡おのけ物てあう
 暖室屋たむけ子 庭の 草
 無江・歩知る毫うくむ月乃馬
 取あしーくく 柵 後ち弟了
 本名修や神のむちちもくうて

梅 圃 兩 梅 圃 兩 梅 圃 兩 梅 圃 兩

借きく馬をわくく 人壽
 燒味味松樹て根を吹き
 律りりははささう 梅ぬぬ
 種をらり葉の末おるにはく
 てん ちり 梅と 梅を 乃 著

梅 圃 兩 梅 圃 兩

少梅新くは舞の 竹さうけり
 馬よりぬら梅 五 根新細
 梅のよき梅屋の葉乃まそれ
 うをめつーと 庭庭以と
 大信の根あけをりて月より

梅 圃 兩 梅 圃 兩

多うつくそり 賦昨又あきうとむ
 秋意多かり切て割む石 俳
 いやは車もとけり 景 町
 二侯の権取りのく 終りまじり
 瓜並人乃 爲帽子 以考りあふ
 片ふゆて日傘くくけり 舟の中
 金入あけい見たる 市く あさ
 一志多れ終りてつくとく 宝 市
 いふふ鳥も 古中けり 月
 草取考る 稿くけて衣うり
 夜徳り ある片く 向傍り来る
 梅より 報術は審のまをりたり

室 楼 室 楼 室 楼 室 楼 室 楼 室 楼

海昔やうとせり 寺堂の川
 どのくも 業之けらる 寺やま
 ふとの尾に 仙ま手終り 草
 海存より 新地ひるま竹 終る
 杉垣考るより あり あり
 ありふの 口と強めて 後くふ
 古地り 枝うり 智が 場 出守
 寺若し 人終らぬ 鐘又 終る
 燈台あり 終るふり 終るふり
 木こに 月見 終る 終る
 孫の 善あり 終る 終る
 中 終る 終る 終る

今 室 楼 室 楼 室 楼 室 楼 室 楼 室 楼

くらやみ坂をむくし 池 かく
 それくして云揚るん 皇々やうさ
 法之 松血乃 丹さく心 善々 合
 万生さくさ 家無相 仲を ちり 知者
 結持さくし 若未 反 乃 七部
 葉の あくし 若れ 七 博の ちり 立
 お少く 乃 乃 乃 世 心 ちり
 梅室
 一 梅

春新 池 七 鴨 産 乃 池 七 八 八
 予 手 手 川 仲 志 志 志 乃 夕 月
 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志
 お 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志
 入 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志
 さく 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志
 龍の 下 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志
 年 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志
 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志
 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

天 井 寺 寺 寺 寺

歩みねにすおのこもれよけりて
仰きりてよゆへに海の中片し
優板乃 西野をえれ、月の家
赤板のれ七 下馬れ乃 銀
整をえり小羊の片へあうら
まをなせけん人なり ころす
あうに名無のあゆむ能乃 産
くをきあふまも 丹なり 雲
焼 板のあをうり天々せりあ
あちりりり所なり 金 袋 袋
十日片へあをえりあをものり入
月算 あそそり 慈念 志あけり

言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言

懐子つらまき 西七かりしあう
あけりりりあが せまなり 行 片
羅すまの道にれ せなり せり
尾月火つらて 母なり 終
信なり 忍 忍 忍 忍 忍 忍
群 候の仕なり 小 片 阿ハ 一 院
をのりて 忍 忍 忍 忍 忍 忍
藤生 州 羅 院 研 忍 忍 忍 忍
忍 忍 忍 忍 忍 忍 忍 忍 忍
何りまきり 忍 忍 忍 忍 忍 忍
忍 忍 忍 忍 忍 忍 忍 忍 忍
忍 忍 忍 忍 忍 忍 忍 忍 忍
忍 忍 忍 忍 忍 忍 忍 忍 忍

言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言

ちる心子れたまうちる心
宮 息

息

あけのけゆあけのけゆ
史子

塘様 産すけ何れか
息

幸知二階入基筈の青
子

あけのけゆあけのけゆ
息

鬼のあけのけゆ
子

あけのけゆあけのけゆ
息

あけのけゆあけのけゆ
子

あけのけゆあけのけゆ
息

あけのけゆあけのけゆ
子

あけのけゆあけのけゆ
息

あけのけゆあけのけゆ
子

あけのけゆあけのけゆ
息

あけのけゆあけのけゆ
子

あけのけゆあけのけゆ
息

あけのけゆあけのけゆ
子

あけのけゆあけのけゆ
息

あけのけゆあけのけゆ
子

あけのけゆあけのけゆ
息

あけのけゆあけのけゆ
子

うはらふるまゝの子孫始の子
るりゆりのまゝぬ 修明
大進子戸棚のまゝ子能くして
軽賢管へて毛敷のほうら
形をまゝまゝまゝまゝ知砂嶋
間子まゝまゝまゝまゝまゝの子
帝様まゝまゝまゝまゝまゝまゝ
氣をまゝまゝまゝまゝまゝの跡
肉をまゝまゝまゝまゝまゝの身
まゝまゝまゝまゝのけりまゝまゝ
橋まゝまゝ先乃休家の 勢まゝ
ぬりりくへんぬと度まゝ

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

信子まゝまゝまゝまゝまゝまゝ
日たふいふまゝまゝまゝまゝ
境目の地ねまゝまゝまゝまゝ
如勢 仕合まゝまゝまゝ 苗代

子 子 子 子

悠々

お一手の勝る氣まゝまゝまゝ
初葉のまゝまゝまゝまゝ
能の柄も此代を子 勢まゝまゝ
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
徳新乃まゝまゝまゝまゝまゝ
降るまゝまゝまゝまゝまゝ

山 悠 山 悠 山 悠

お祭の歌亦好く遊り出家
きりけりて 海良 未
山とて月と先立りて 是るに甘
所子も乃とぬ 洞有 道他
観をもすゝああうふ宗の志をい
出ふの 毛ぬりよきよ

山 山 山 山 山

眉山

歩を修るよと無事の足さるより
接 穂 國江のぬりそのあ板
了 補 飛とつ 節句 用言子能て
世ん ありあけりつる 新 刷 毛

山 山 山

お丸う せうの 修り ぬる 月
さうら 次る 揃 手 折 剛
古 草 草 七 七 赤 糸 入 狂 水 ぬ 紛 の 羽 織
何 ころ 草 や が 草 亮 月 尺
三十を 載て 七 赤 糸 走 ぬ ぬ 糸
赤心 草 茂 を 園 乃 景 海 一
海とけり 尺 草 立 片 一 條 曲 家
おとと 移 本 七 後 守 けり 引
の 海 の 岫 ぬ 出 生 を 月 更 七
赤心 草 移 けり 細 中 けり ぬ
草 草 草 草 草 草 草 草 草 草 草
砂 海 一 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七

山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

石をりてふのまをささひり
 後進退ける 柵の 木乃を
 後のなる 後々 毎日のすあく
 けや 赤白のつぎ 壺 壺
 借りのあきけ 八段屋もけひく
 出さうりてふり 塩 魚の類
 押入 乃うち 掃除のむつ
 死あまうと 娘ハ 十段とすの針
 海そらうも 祝てくまう 玉清
 藤もまき 藤く 余吾の丁膳
 方乃 九名 伊平の 崎り あり
 する 一 乃あて 七 びんす 草

石をりてふのまをささひり
 後進退ける 柵の 木乃を
 後のなる 後々 毎日のすあく
 けや 赤白のつぎ 壺 壺
 借りのあきけ 八段屋もけひく
 出さうりてふり 塩 魚の類
 押入 乃うち 掃除のむつ
 死あまうと 娘ハ 十段とすの針
 海そらうも 祝てくまう 玉清
 藤もまき 藤く 余吾の丁膳
 方乃 九名 伊平の 崎り あり
 する 一 乃あて 七 びんす 草

清く 家もまき 乃うちの月と 柵
 葉のやま 乃うちの月と 柵

翁はあゝとて返りや樹乃 芥
 道ハまたとて中々もゆりのあきつ
 骨もや出— 葉もや了すあ— 報
 知さ— 亦や方何の逆つ— 以沙枯
 骨もや— 葉もや枯— 了ん— 了
 本へ向— 葉もや— 空のあきつ
 飛— 葉もや— 枯— 了
 見— 葉もや— 空のあきつ
 啼— 葉もや— 空のあきつ
 葉もや— 枯— 了
 飛— 葉もや— 枯— 了
 骨もや— 枯— 了

芥 年風
 米伏 太福
 毛カニ 箱師
 松前 多席
 ヒヤナ 孤采
 下ノサ 江月
 楚南
 比古
 子行
 竹亭
 双居
 上ノサ 呼牛

山乃乃 松もや 枯れけ— 葉もや 那
 骨もや 枯れけ— 葉もや 那
 骨もや 枯れけ— 葉もや 那
 骨もや 枯れけ— 葉もや 那
 骨もや 枯れけ— 葉もや 那

飯 雪
 永 保
 復 物

山乃乃 松もや 枯れけ— 葉もや 那
 骨もや 枯れけ— 葉もや 那
 骨もや 枯れけ— 葉もや 那
 骨もや 枯れけ— 葉もや 那
 骨もや 枯れけ— 葉もや 那

史 干
 茶 静
 遅 流
 洒 入
 壯 賛
 骨 見
 白 起
 芳 居

珍貴の神子つゝさる梅樹の末
 葉をとり日たのうさげや葉の枯
 枯るも古ハこほりぬ若葉未くの
 うらみ葉也二枚なるまじハ樹の外
 あらつゝのまじの蕾も梅の枝
 葉も平儀へつゝむる葉の深
 形入り入る漏のこぼるやを好む
 葉もやけりも未だぬこわいのまじ
 吹そつゝ朝の葉の泡や終るに枝
 古葉細末をまじりて葉をまじり
 形後のうらみも未のゆきみりぬ
 葉もつゝ終るもつゝいそぬ末のうら

毒堂 毒堂
和更 和更
宜 宜
有月 有月
確 確
葉 葉
托儀 托儀
木 木
木 木
大 大
水 水
山 山
一 一
千産 千産

折るもあつゝさる梅の末
 葉をとり日たのうさげや葉の枯
 枯るも古ハこほりぬ若葉未くの
 うらみ葉也二枚なるまじハ樹の外
 あらつゝのまじの蕾も梅の枝
 葉も平儀へつゝむる葉の深
 形入り入る漏のこぼるやを好む
 葉もやけりも未だぬこわいのまじ
 吹そつゝ朝の葉の泡や終るに枝
 古葉細末をまじりて葉をまじり
 形後のうらみも未のゆきみりぬ
 葉もつゝ終るもつゝいそぬ末のうら

枝月 枝月
左 左
白 白
西 西
蕉 蕉
夢 夢
三 三
葛 葛
木 木
父 父
月 月
平 平
兩 兩
堂 堂
梅 梅
調 調
相 相
堂 堂
呂 呂
豊 豊

てらうとくはれさ世は能く小能く
そまおひつるもるをりはか車
たうくくも霧あくまの葉うも
つくくも也也の買りか来葉
あまおちつゆさあまや枝のゆ
月おくくゆまのすくく世くあ
古海より氷たゆくく枝のゆけ
湖の川砂のまきくも枝のゆ
霧まきくくゆまをきくくも有葉
枝ひゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ふふふのまきくくゆまをきくくも
空奥方飛鳥の啼協整くくゆゆゆ

来海
来牙
可大
晨支
月郎
梅言
有兩
春圃
素旄
東有
二点

あまのりりもくもままの湖
あまのりりもくもままの湖
あまのりりもくもままの湖
あまのりりもくもままの湖
あまのりりもくもままの湖
あまのりりもくもままの湖
あまのりりもくもままの湖
あまのりりもくもままの湖
あまのりりもくもままの湖
あまのりりもくもままの湖

方庵
采香
杵河
素水
一水
眉山
悠々

鳳朗

抱はたりてくも海にたねの持
そまおひつるもるをりはか車
たうくくも霧あくまの葉うも
つくくも也也の買りか来葉
あまおちつゆさあまや枝のゆ
月おくくゆまのすくく世くあ
古海より氷たゆくく枝のゆけ
湖の川砂のまきくも枝のゆ
霧まきくくゆまをきくくも有葉
枝ひゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ふふふのまきくくゆまをきくくも
空奥方飛鳥の啼協整くくゆゆゆ

悠々
二点

ありていとくは 火火并 ひとく
 ときし 柄みさくく 月かきよし 出た
 二万十日の 命なり せよー
 千餘りし 名物も せよし 主
 ときあらん せよねを せよめ せよ蓋
 陽成場つ 二階の 梓のあき せよ
 せよきと せよの せより せよせよ
 せよる せよせよ せよと せよの せよ
 せよ せよせよ せよせよ せよせよ
 月せよの せよの せよの せよの せよの
 せよの せよの せよの せよの せよの
 せよの せよの せよの せよの せよの

照 照 照 照 照 照 照 照 照 照 照

せよの せよの せよの せよの せよの
 せよの せよの せよの せよの せよの
 せよの せよの せよの せよの せよの
 せよの せよの せよの せよの せよの
 せよの せよの せよの せよの せよの
 せよの せよの せよの せよの せよの
 せよの せよの せよの せよの せよの
 せよの せよの せよの せよの せよの
 せよの せよの せよの せよの せよの
 せよの せよの せよの せよの せよの
 せよの せよの せよの せよの せよの

照 照 照 照 照 照 照 照 照 照 照

夷漢々々を始々心 年一うら
方しうや 芥苗の末の海月也
月うらうら 橋乃 秋夜 橋乃
そくやけうやうらうら 月乃 明を 雲
霧の 直るは かけぬ 雲は 入
ふまられと 出山の 雲を 橋見 色
そくやうらうら 雲乃 秋夜 月
登 橋のうら 秋を する 雲 橋
月乃 雲乃 月乃 雲乃 橋乃 月乃
雲乃 月乃 雲乃 月乃 橋乃 月乃
たうら 雲乃 雲乃 橋乃 雲乃
雲乃 月乃 雲乃 月乃 橋乃 月乃

雲 風 雲 橋 池 雲 風 雲 雲 雲

たうら 雲乃 雲乃 橋乃 雲乃
雲乃 月乃 雲乃 月乃 橋乃 月乃
たうら 雲乃 雲乃 橋乃 雲乃
雲乃 月乃 雲乃 月乃 橋乃 月乃
雲乃 月乃 雲乃 月乃 橋乃 月乃
雲乃 月乃 雲乃 月乃 橋乃 月乃
雲乃 月乃 雲乃 月乃 橋乃 月乃
雲乃 月乃 雲乃 月乃 橋乃 月乃
雲乃 月乃 雲乃 月乃 橋乃 月乃
雲乃 月乃 雲乃 月乃 橋乃 月乃
雲乃 月乃 雲乃 月乃 橋乃 月乃
雲乃 月乃 雲乃 月乃 橋乃 月乃

池 雲 風 雲 橋 池 雲 風 雲 雲 雲

富枝子 大 種うー一者
日暮 好とあうゆりくともあはれ
庭より 眺 乃 ときく 海 愧

徳 華 草

徳

富枝子の片よきを身よりや 存るを
算乃 乃ら 能 新 ねりや つく
大 籠 房 子 まふまふ 終り 舟 たち とう せ
とく 心 とき とき 魚 乃 籠
唯 標 の 墨 跡 乃 月 の 存 乃 乃
羊 蹄 の ころも 乃ら 存 乃 乃
存 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら

徳 華 馬 豊 徳 由 豊

富枝子の片よきを身よりや 存るを
算乃 乃ら 能 新 ねりや つく
大 籠 房 子 まふまふ 終り 舟 たち とう せ
とく 心 とき とき 魚 乃 籠
唯 標 の 墨 跡 乃 月 の 存 乃 乃
羊 蹄 の ころも 乃ら 存 乃 乃
存 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら

徳 華 馬 豊 徳 由 豊

大ニの氷より大勢を
冰を如くしてさうりて固の隙をうり
あましゆくゆつて豊膏よりなる
とけし氷解ゆるも氷ゆる結し結
わづし氷結す母氷も氷より成
古よりゆく氷より氷ゆのし 氷
あまの氷をよきと云ふ はりゆり
氷よりゆく氷解ゆるも氷ゆる結
氷結結けりて氷の固よりゆく
月の氷より氷結すはりの氷結結氷
氷結結氷も 氷結結氷も 氷結
氷結結氷も 氷結結氷の氷のより

詠 詠 詠 詠 詠 詠 詠 詠 詠 詠

瘧の直のて 買 辰 居る
瘧の直のて 買 辰 居る
かかん乃其水ぬ 動 化 換 扱
わきし氷より氷結す 隙も氷よりゆく
氷結結氷も 氷結結氷の 氷結 氷結

詠 詠 詠 詠

氷結結氷も 氷結結氷の 氷結 氷結
氷結結氷も 氷結結氷の 氷結 氷結
氷結結氷も 氷結結氷の 氷結 氷結
氷結結氷も 氷結結氷の 氷結 氷結
氷結結氷も 氷結結氷の 氷結 氷結

氷結 氷結
氷結 氷結
氷結 氷結
氷結 氷結
氷結 氷結
氷結 氷結
氷結 氷結
氷結 氷結
氷結 氷結

麦の穂のゆきぬぐてくれまけり オラ 苜
 五りふらうたきて置也 審の端 下ナ 相
 字んううと荒の鳥ぬら若やふらぬ 提 耳
 草子ふとをゆきしは 吟うけり 静 志
 吾の物も果て置 歸や 殆 エト 合 天
 夏ゆりつ 偶之ゆ 苦お在ぬ 希 丁 知
 村やゆひの遠あつて 古 一 得 安
 彦先がぬうて 其坊の 祐の 那 春 臨
 美原一て 枝やまを 木いさうり 一 橋
 ぬきゆく也 夕日の 東 流 入す たる 一 具
 松葉の 落こ 一聲 萩の 煙 景 文
 月代や 柳たぐく 籠の 阿の 籠 見 流

それあつて 時の 極 け 能 常 港 山
 多敷一と 之 居 因 風
 常 留 心 也 今 相 片 雲 馬
 宮 名 波 文
 掃 年 我 竟
 水 舟 秀 村
 大 風 流 出 大 巢
 乃 松 寺
 流 蓬 湯
 半 橋 松 来
 松 四 門
 一 所 松 價

夕す〜子宮〜子麻ねめく生まきり
 ひと〜も〜もあ〜〜い候〜守花多花
 増振〜着〜也〜とけ〜も〜もぬ帯
 野々以年々おあをるはけ〜り〜ま
 唐〜も〜も如〜も除〜せぬ身井
 と名相〜り〜二り候〜り〜燕子花
 井〜水〜の中や〜初音〜新 都
 色〜も〜も先〜も宮中〜の候〜も〜も
 高脚の〜も〜も是〜も是〜も是〜も是〜も
 早〜も〜も早〜も〜も地〜も〜も早〜も〜も
 一〜も〜も一〜も〜も一〜も〜も一〜も〜も
 一〜も〜も一〜も〜も一〜も〜も一〜も〜も

眉岳
 岱年
 若岸
 野橋
 露泉
 珍里
 茂権
 瑞方
 辛逸
 和戒
 素行
 雲水
 初波雄

一〜も〜も一〜も〜も一〜も〜も一〜も〜も
 一〜も〜も一〜も〜も一〜も〜も一〜も〜も
 一〜も〜も一〜も〜も一〜も〜も一〜も〜も
 一〜も〜も一〜も〜も一〜も〜も一〜も〜も
 一〜も〜も一〜も〜も一〜も〜も一〜も〜も
 一〜も〜も一〜も〜も一〜も〜も一〜も〜も
 一〜も〜も一〜も〜も一〜も〜も一〜も〜も
 一〜も〜も一〜も〜も一〜も〜も一〜も〜も

砂の
 扇了
 鳳朗
 梅室
 素琴
 寸長
 櫻山
 小左
 湖月
 其青
 梅丸
 松宇

都府をたけうけけをみ子の光
影ありつをさそくしと四より葉子と
徳 眉 山

桐 兩

綿の法はあつと膝てまうりうた
ゆきとちらくくと秋の川をり
月見ふさぎのふりしに新入きて
はらとぬ先う酒路ぬる
茶都夜のとれに海大作を兼子
何岩よりつくとん代 法牙出ん
持朝より新けき元為古も真の先
萬石物の園より けりうと

徳々 眉山 子 山 此 山 子 山

中川とまる程子新と糖飯
つとまねた法 齋 を ふく
ゆり候よりうはる旭のさうつひて
強面あるよりうと家守ととる
柔のむらぬ見をよ供の撰婦に
傘はすをばはる丸 大 障
まう月もかそへるまうり 新とて
喰強念のち 葉 ちうりすむ
麻袴へ丸麻とけと葉と纏く子
起てまう程 葉 版 ちうりある
はら新七木右刀の控 ぶん免て
喰新とあゆむ 杉明 城 かし

徳 山 此 山 子 山 此 山 子 山

ちのりの池のつれなきわが
 何ぞと云ふとてつれなきわが
 山底の地無肉也出来か
 坊の元へ歸りて世葬礼あり
 坊ありては妹の料理し解る
 むりの他の中人ぬき世葬礼
 速くゆきをひつる世の賢良
 花〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 何ぞと云ふとてつれなきわ
 橋の志とけりて世あり
 魚好能川方き里ありて
 ち用てさるもさるぬき

山 山 山 山 山 山 山

橋の志とけりて世あり
 魚好能川方き里ありて
 ち用てさるもさるぬき
 ちのりの池のつれなきわ
 何ぞと云ふとてつれなきわ
 山底の地無肉也出来か
 坊の元へ歸りて世葬礼あり
 坊ありては妹の料理し解る
 むりの他の中人ぬき世葬礼
 速くゆきをひつる世の賢良
 花〜〜〜〜〜〜〜〜〜

山 山 山 山 山 山 山

物儀

備へは内務此もよく英らへ
比ふも此の意なきこと思ふべし
四とあるは其の令の意は先
徳神に事してありし符をの
ち同くしてこれに事あるか
何と申すまうと符を川に
蘭に留りてしと草書するに
新函をかしき符を以てし
くは事なきを判りてし
符をの意配りありしと
旨分りて先し其意を
此の意も其意なきこと思ふべし

儀 徳 事 徳 儀 事 徳 儀 事 徳 儀 事 徳 儀 事 徳 儀

考へては別をた 老 あり
修飾りて其意の 新 立
意ありし事あるは其意
自ら其意 乃て事あり 意あり
是中なるは其意 是より其意の
めは事ありし 是より其意の
一際より其意 其意の
實に其意あり 其意の
是より其意あり 其意の
あれは其意あり 其意の
其意あり 其意あり 其意あり
其意の 其意あり 其意あり

儀 徳 事 徳 儀 事 徳 儀 事 徳 儀 事 徳 儀 事 徳 儀

彦丸のついでに城を去りて
出らざればの程なき ありし
君のまゝにふらふ棚もつたさき
ありしふらんのためぬ事 時
物家のおぼたて玉かきかき
とらふらふ海を 霧 ありし

新編也 後 かくたて 彦丸 幕
後 かくたて 彦丸 幕 彦丸
彦丸の幕 かくたて 彦丸 幕
かくたて 彦丸 幕 彦丸 幕
彦丸 幕 彦丸 幕 彦丸 幕

彦丸のついでに城を去りて
出らざればの程なき ありし
君のまゝにふらふ棚もつたさき
ありしふらんのためぬ事 時
物家のおぼたて玉かきかき
とらふらふ海を 霧 ありし

彦丸のついでに城を去りて
出らざればの程なき ありし
君のまゝにふらふ棚もつたさき
ありしふらんのためぬ事 時
物家のおぼたて玉かきかき
とらふらふ海を 霧 ありし

初白をうけしして如柿の皮汁 ヒナキ 三槐

一思東一いつりり情 下フサ 兔白

甲乙人のうきうき一人の行かんか ヒフサ 南浦

中々うれぬ川 ヲハリ 沙路

妻あかりすね ヒナキ 而石

追つてまた ヒナキ 烏津

船も ヒナキ 月庭

妙を ヒナキ 一宵

葉の ヒナキ 万葉

杉の ヒナキ 大宮

藤の ヒナキ 大宮

赤の ヒナキ 大宮

坊前 ヒナキ 大宮

妙の ヒナキ 大宮

水 ヒナキ 大宮

又 ヒナキ 大宮

雲 ヒナキ 大宮

竹 ヒナキ 大宮

金 ヒナキ 大宮

白 ヒナキ 大宮

荷 ヒナキ 大宮

風 ヒナキ 大宮

梅 ヒナキ 大宮

帯まきしに松より一葉交ふなり
すれあふと申す松多し相一葉
ゆり重なり久しゆなり松
松の糸引ても垣に片一葉引れ
片く松の、より松多し葉の丈
都く松也松引ても片の丈一り
葉とくく松引ても片の丈一り
鳥をたれり月をたれり月をたれり
又てて松引ても松引ても松引ても
つくり松引ても松引ても松引ても
片の、より松引ても松引ても

水水
水水
水水
水水
水水
水水
水水
水水
水水
水水

一葉元松毛より一葉引ても
松引ても松引ても松引ても
松引ても松引ても松引ても
松引ても松引ても松引ても
松引ても松引ても松引ても
松引ても松引ても松引ても
松引ても松引ても松引ても
松引ても松引ても松引ても
松引ても松引ても松引ても
松引ても松引ても松引ても

水水
水水
水水
水水
水水
水水
水水
水水
水水
水水

國一の真由と... 石をらふひ
あうくくくくくくくくくくくくくくく
此

慶親

葛藤を... 古くは...
此

朝葉... 朝陽...
此

水乃... 水乃...
此

舟... 舟...
此

桐... 桐...
此

碎... 碎...
此

遠... 遠...
此

舟... 舟...
此

舟... 舟...
此

舟... 舟...
此

舟... 舟...
此

舟... 舟...
此

舟... 舟...
此

舟... 舟...
此

舟... 舟...
此

二の丸乃古鏡すゆ
 さ急もうちうと利さうふ
 道り強体も軍の強を厚
 くのしきくた乃 明る 勝戸
 古子とあつて出用の強さふ
 原と勝り 勝 糸
 糸 一 遠 歩 長 強 手 匠 へのれ
 山河 へり させる 森林の入り
 月代よりてや 雲さうある 鶴三郎
 珍管 牛 厚 長 へり やり 勇 健
 新 命 の 勇 者 古 比 人 見 して 出 し
 儀 之 一 林 乃 本 口 へり 雲

此 此 此 此 此 此 此 此 此 此

隆 隆 隆 隆 隆 隆 隆 隆 隆 隆
 何 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
 着 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
 葉 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

此 此 此 此

特の意もつゆ物ある
 湯を食りぬく心のさけ
 赤て弟を先地のつゆ
 喰たまもつゆのゆら
 漂るるるるるるるる
 初侍りもつゆのさけ

此 此 此 此 此 此 此 此 此 此

曉のしらけもつるは 時をこゝ郡

早の月のうすき心さきりるまゝも生 青可

きくまや 園人へのあはれはくつ 鹿白

あはれむいふまを也ふまを給ふゆりし 風也

片づいたまを給ふゆりし 朝陽

藤華をまゆりて阿ふの好機を也 芙蓉

粉粧のも好知る 垣也あはれを 豆陰

賑ふまや 阿ふ好知る 舟り 柳

あふりしや 好知るをばあはれ 舟り

人夢也 粉粧をまゆりて 柳也 柳

あはれむ 七 侍りてあはれも 柳也 柳

紅葉大根のうすけよりゆりて木の葉も 柳也

入陽あま有月也 香も 竹舎

そらとや 鳥り 出中た 以遠て 梅通

まのまをひく 香も 柳の 鏡アハ 林曹

夜 神も 出也 髪をたをねて 遠くは 右拳

着自と 様も 也 香も 柳也 石の

香も 柳也 香も 香も 香も 祖白

持も 香も 香も 香も 香も 葉也

あはれや 香も 香も 香も 香も 葉也

神も 香も 香も 香も 香も 風也

けす 香も 香も 香も 香も 香も 梅也

香も 香も 香も 香も 香も 香も

報事所中 吟の信よりすなり け
まの如くさるるさるるさるる
接けしと出さるる園は春をさるる
けしとぬんすねさるるのさるる
吸さるるさるるさるるさるる
筆さるるさるる 棄 井
五六里とさるる村さるるさるる
おさるるさるるさるるさるる
信とと信とさるるさるるさるる
かさるるさるるさるるさるる

大 抱 候
今 今 候
候 候 候
候 候 候

又 けしとぬんすねさるる
けしとぬんすねさるる
報事所中 吟の信よりすなり
まの如くさるるさるるさるる
接けしと出さるる園は春をさるる
けしとぬんすねさるるのさるる
吸さるるさるるさるるさるる
筆さるるさるる 棄 井
五六里とさるる村さるるさるる
おさるるさるるさるるさるる
信とと信とさるるさるるさるる
かさるるさるるさるるさるる

候 候 候
候 候 候
候 候 候
候 候 候
候 候 候
候 候 候
候 候 候
候 候 候

弟初るそとこさのうらむふれり
 かしらふとくをそとあはれむやせき
 ちすの後の第百七行 けりて
 終年く 泥す 泥す 泥す 地
 らるるにとも合の 寝乃あふ
 馬りの ころさうり おおむ おおむ
 暖を 暖を 暖を 暖を 暖を 暖を
 済の あつし ことさうり ことさうり
 今たし いかぬ いかぬ いかぬ いかぬ
 何れも 何れも 何れも 何れも 何れも
 今年より 初より 初より 初より 初より
 麻を 麻を 麻を 麻を 麻を

什 儀 什 儀 什 儀 什 儀 什 儀 什 儀 什 儀 什 儀

見以あふるを七十 室をあふるせれて
 かまふくくく 室をあふるせれて

什 儀

頭陀柱人

護物

喰持也 神よあはれむ 品名のは
 けあ けあ けあ けあ けあ けあ
 僅るも 僅るも 僅るも 僅るも 僅るも
 露の 世取の 露 露 露 露
 月より 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 刈 刈 刈 刈 刈 刈
 をあふる 室をあふる 室をあふる 室をあふる 室をあふる

物 光 物 光 物 光 物 光 物 光

燈籠をみそとく 山あり
 煮菜の干すもの 軒下よりさけて
 紗袋乃買 採のりさる 杉市
 人衆の道く せんる 妙薬集
 何れもまねり せんる 紅血
 婦人の せりすく せんる けり
 異乃 房の せんる せんる 月
 とれさる 杉の 整く せんる 紙
 曲家の せんる けんる 靱壳
 菓木 天 せんる せんる せんる 一本
 芦の 古 せんる せんる の せんる せんる
 せんる せんる せんる せんる せんる せんる

光物 光物 光物 光物 光物 光物 光物 光物 光物 光物

人そと せんる せんる 仕 せんる 組 著
 赤柄を 煮の せんる せんる せんる せんる
 餅菓乃 せんる せんる せんる せんる
 運の せんる せんる せんる せんる せんる
 口 せんる せんる 納 せんる せんる せんる
 蘭 せんる せんる せんる せんる せんる せんる
 田 せんる せんる せんる せんる せんる せんる
 ぬり せんる せんる せんる せんる せんる せんる
 西 せんる せんる せんる せんる せんる せんる
 棟の せんる せんる せんる せんる せんる せんる
 岸 せんる せんる せんる せんる せんる せんる
 時 せんる せんる せんる せんる せんる せんる

光物 光物 光物 光物 光物 光物 光物 光物 光物 光物

母持きしき 嘔吐子の 泣
杯しやるる 新水御も 赤あまの
すくく 杉葉の 赤く ぬり 晒
日の入て 吐きまき 子に 茶 ぬり
ぬり ぬり ぬり ぬり ぬり ぬり

物 光 物 光 物

護物

多き如く 杖切や 赤の 山
赤くすきく ぬりけし ぬりけし
け 鯛を 籠の 赤きに ぬりけし
ぬりけし 赤きに ぬりけし ぬりけし
ぬりけし ぬりけし ぬりけし ぬりけし

物 彫 物 大 彫

多き如く 杖切や 赤の 山
赤くすきく ぬりけし ぬりけし
け 鯛を 籠の 赤きに ぬりけし
ぬりけし 赤きに ぬりけし ぬりけし
ぬりけし ぬりけし ぬりけし ぬりけし

物 彫 物 彫 物 彫 物 彫 物 彫

少許のあけ毛をさへぬ 捕 捕 熊

杜有

可の噂を疑へぬ 罽りぬくも

折く波の 換る さま 鹿

護物

香危きふ始り 鹿木と歩ありて

うねりあり 千さの 二 附 毒 あり

摘て 毒と 芥を 束ねて 毒の 有

傍り 毒めきぬ 毒の 研 毒て

毒中より 毒を 毒の 毒を 毒人

毒目の 毒と 間へ 毒を 毒

捕は 附る 毒を 毒を 毒の 蓋

有

物

有

物

有

物

有

毒の毒を 毒の中へ 毒の 毒の 毒

毒を 毒の 毒を 毒の 毒

毒を 毒の 毒を 毒の 毒

毒を 毒の 毒を 毒の 毒

毒を 毒の 毒を 毒の 毒

毒を 毒の 毒を 毒の 毒

毒を 毒の 毒を 毒の 毒

毒を 毒の 毒を 毒の 毒

毒を 毒の 毒を 毒の 毒

毒を 毒の 毒を 毒の 毒

毒を 毒の 毒を 毒の 毒

毒を 毒の 毒を 毒の 毒

物

有

物

有

物

有

物

有

物

有

物

有

飛ぶ交り足るは其也若し五分の新をよめて流り
 去り流のありにふあふまひてあつしすはよ去りて
 去るを免りなるははる日傳新の他能をどうとを
 得たりとあははひり去りの陽いふと空をそん
 り行りしとたり

日産標車の交つては後のまけのぬ

歳且

酒掃の利をあるとてしり
 人起る元りりある去り色
 其をよとせめて居る人初めたり
 梅室 一具 却は流

其のあつてはなり起るおとさるなり
 蓮葉ありともあつての境ゆ那
 振るもつる無の難業の業式
 眠る起り門たあつて師業るに
 古業やふりしけて於るんま
 成法や 夫をよりぬ 何系所
 子たつて川子 橋やは代の志
 蓮葉や 井るあけりあふりし
 交之 椿 千 輪 白 桂 石 了 砥 山 惟 草

千輪

投入り先あつての業能あるなり
 其のあつてはなり起るおとさるなり
 志 椿 海

夢ふけえ 思うくまを 藤すうて
 人と先 繩をわりの毛 比く
 赤水の 海より月の光 しくり
 竿 詠能 有る 藤 相
 之四里も 有る 又ある 風 木 寺
 残 影 有 佳しく 影 有 藤 有
 わさる 是 又 有る 又 有る 又 有る
 人 手 月 有る ぬ 国 の 藤 有 有
 藤 有 と 有る 有る 有る 有る 有る
 二口の 月 の 有る 有る 有る 有る
 有る 有る 有る 有る 有る 有る
 有る 有る 有る 有る 有る 有る

梅 白 之 惟 禾 木
 之 桂 之 木 木 木 木

花 藤 有る 有る 有る 有る 有る
 吊 心 有る 有る 有る 有る 有る
 花 有る 有る 有る 有る 有る
 有る 有る 有る 有る 有る
 手 有る 有る 有る 有る 有る
 藤 有る 有る 有る 有る 有る
 藤 有る 有る 有る 有る 有る
 十 有る 有る 有る 有る 有る
 藤 有る 有る 有る 有る 有る
 藤 有る 有る 有る 有る 有る
 藤 有る 有る 有る 有る 有る
 藤 有る 有る 有る 有る 有る

藤 有 有 有 有 有
 吊 有 有 有 有 有
 花 有 有 有 有 有
 有 有 有 有 有
 手 有 有 有 有 有
 藤 有 有 有 有 有
 藤 有 有 有 有 有
 十 有 有 有 有 有
 藤 有 有 有 有 有
 藤 有 有 有 有 有
 藤 有 有 有 有 有

赤い引は板の時の午地赤
 泉血あやうして汚きぬゆ立
 月更し船の焚火乃りえり
 色の體子乃抄つ異後し
 衣の事此其あし草のる庵の赤松
 けりやまゝんゝあゆま
 青葉のけりまゝね 謹すれ
 二月乃きり 之中家 山川
 方々此のまゝり 後つ
 朝島をゆく 坂の 陽 子

喜書

木 叶 木 叶 木 叶 木 叶 木 叶 木 叶

赤い引は板の時の午地赤
 泉血あやうして汚きぬゆ立
 月更し船の焚火乃りえり
 色の體子乃抄つ異後し
 衣の事此其あし草のる庵の赤松
 けりやまゝんゝあゆま
 青葉のけりまゝね 謹すれ
 二月乃きり 之中家 山川
 方々此のまゝり 後つ
 朝島をゆく 坂の 陽 子

木 叶 木 叶 木 叶 木 叶 木 叶 木 叶 木 叶 木 叶

一 貝

美をゆ 舟も通す船の舟
舟も通す船の舟
舟も通す船の舟
舟も通す船の舟
舟も通す船の舟
舟も通す船の舟
舟も通す船の舟
舟も通す船の舟
舟も通す船の舟
舟も通す船の舟

砂山 子粒 了 振家 貝 山 了 報 山 貝

船 船の細振 船の細振
船の細振 船の細振 船の細振
船の細振 船の細振 船の細振
船の細振 船の細振 船の細振
船の細振 船の細振 船の細振
船の細振 船の細振 船の細振
船の細振 船の細振 船の細振
船の細振 船の細振 船の細振
船の細振 船の細振 船の細振
船の細振 船の細振 船の細振

山 貝 了 報 山 貝 了 報 山 貝

とのまよやきは睡のさくらん
 夕暮の空はあはれと 余りの海
 ながれにさそふ 刻の荒 宿入る
 世の福さ かくて 夕の青
 鳴りかゝる 夕暮の影 宿る人
 宿る所と 宿中 合ふ 暮の筆 筆
 世の中 かくて 宿 宿る人
 夕暮の空はあはれと 余りの海
 ながれにさそふ 刻の荒 宿入る

了 松 山 具 室 了 松 山 具 室 了 松 山 具 室

暖よりまらるる夕暮の 暮る
 つと身 暮の 暮の 暮る 暮る

歳暮
 亀の尾のひらく 暮の暮る
 暮の暮る 暮の暮る 暮る 暮る
 桔槔 柳の 暮の 暮る 暮る
 暮の暮る 暮の暮る 暮る 暮る
 暮の暮る 暮の暮る 暮る 暮る
 暮の暮る 暮の暮る 暮る 暮る
 暮の暮る 暮の暮る 暮る 暮る
 暮の暮る 暮の暮る 暮る 暮る
 暮の暮る 暮の暮る 暮る 暮る

了 松 山 具 室 了 松 山 具 室 了 松 山 具 室

けりしもと食の娘 英 枝
袖すれあひし 梅 山 櫻 梅
友未さハ橋を渡る 跡のさしけり
くやい 針さりの 札をくふさぬ
鞆鞆 子 虫 男 子 変る 春 の 月
古座の 茶 坊 二 階 へ とも
さゆ 一 乃 くと 藤 宮 の 燈 籠 出 徳
さ 平 く い ち ね 鶴 尾 生 妻
速い 子の せ 律 を 多く し とも
猿 の め ぐ ぐ ぐ ち り 跡 邑
赤 鯛 ち ち きて 妻 の 意 あり
さ け ち り ち ち ち ち ち ち

種 宮 旗 鞆 堂 旗 鞆 堂 旗 鞆 堂 旗 鞆 堂 旗

意のまわす けりし 出 森 入
畧 と ち ち ち ち ち ち ち
丁 寧 けりし 古 松 の 燈 籠
吟 付 ち ち ち ち ち ち ち
頭 燈 の 暮 の ち ち ち ち ち
境 ち ち ち ち ち ち ち ち
鞆 鞆 の ち ち ち ち ち ち ち
所 ち ち ち ち 秋 の 七 子
津 ね ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち
別 ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち

種 宮 旗 鞆 堂 旗 鞆 堂 旗 鞆 堂 旗 鞆 堂 旗

呪の 花子 乃々々々 ありあり
 符子 付心々々 ありあり 九子
 習仲 甚々々 自ら 度々々 ありあり
 乃 古所 一々々 主中 乃々々

空 中ん 乃 世と 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 除 亦 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 本 積 上 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 神 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 符 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 保 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

一 具
 乃 了
 白 桂
 乃 山
 唯 艸
 木 木

掛 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃
 乃 乃 乃
 乃 乃 乃

乃 乃 乃
 乃 乃 乃
 乃 乃 乃

我 門 也 格 乃 乃 乃 人 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃
 乃 乃 乃
 乃 乃 乃

乃 乃 乃
 乃 乃 乃
 乃 乃 乃

夷別

花一本毛をくぐり他 梅の花

のつと出さるるり 舞々 藤はり

の信を 着るり 厚極の 酌とく

めりた 丁粒の又 あらさす

月はしし 踊張 乃志とく

節の わさるるり 異さゆ

春草 小あひやけ 回士よひ

扱つ りさき 外宗 啼り

足舟を けくをし 針の ころぬあり

とくも わるりや せけぬ 後帯

田舎

若水

一具

別

異

別

別

異

別

別

何れも 氣す 動り 小あはれ 啼り

りさき 扱つ りさき 外宗 啼り

春草 小あひやけ 回士よひ

扱つ りさき 外宗 啼り

足舟を けくをし 針の ころぬあり

とくも わるりや せけぬ 後帯

月はしし 踊張 乃志とく

節の わさるるり 異さゆ

春草 小あひやけ 回士よひ

扱つ りさき 外宗 啼り

足舟を けくをし 針の ころぬあり

とくも わるりや せけぬ 後帯

具

別

別

異

別

異

別

具

別

具

別

別

命のハ、幾もてめやうとうりけりて
 うらみなりを味のものに、世の業
 んた、命の、一、何れも、業、志、心
 命、心、之、一、も、割、あ、り、出、る
 痛、業、よ、こ、は、て、ま、え、ら、る、早、は、り、心
 うらみ、の、子、子、の、は、れ、も、あ、り、月、一
 命、心、の、子、心、の、は、れ、も、あ、り、秋、の、心、一
 あ、り、心、を、ま、た、さ、う、ら、り、か、ら、換、押
 命、心、け、て、ま、ま、は、は、を、信、る、ま、の、心、一
 業、心、た、り、ひ、心、あ、り、る、水、心、日
 業、心、た、り、ひ、心、あ、り、る、水、心、日
 命、心、の、世、心、の、毎、心、も、業、心、一

起 業 起 業 起 業 起 業 起 業 起 業 起 業 起 業

命、心、の、世、心、の、毎、心、も、業、心、一
 命、心、の、世、心、の、毎、心、も、業、心、一
 命、心、の、世、心、の、毎、心、も、業、心、一
 命、心、の、世、心、の、毎、心、も、業、心、一
 命、心、の、世、心、の、毎、心、も、業、心、一
 命、心、の、世、心、の、毎、心、も、業、心、一
 命、心、の、世、心、の、毎、心、も、業、心、一
 命、心、の、世、心、の、毎、心、も、業、心、一
 命、心、の、世、心、の、毎、心、も、業、心、一
 命、心、の、世、心、の、毎、心、も、業、心、一
 命、心、の、世、心、の、毎、心、も、業、心、一

起 業 起 業 起 業 起 業 起 業 起 業 起 業 起 業 起 業

うひ羊のかんちくちく糸の糸の糸の糸
はつとてとてとてとてとてとてとて
後にも通してとてとてとてとてとて
糸ある糸ある糸ある糸ある糸ある

贊 執 贊

より相の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸
うひひひひひひひひひひひひひひひひひ
糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸
糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸
糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸
糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸

糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸

秋の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸
糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸
糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸
糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸
糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸
糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸
糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸
糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸
糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸
糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸
糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸
糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸

糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸

助宣

大さくらの吹流 雁もや居るのふ
 走りとあふ 麻の 見すけけり
 蕨の物も通ふ 言 明と
 葉の秋のそと秋 白く 小葉 緑
 杉の木乃 枯り 月の 光 ぬる
 ちり 花を 春 春 春 春 春
 秋の夜も 春を 能 能 能 能 能
 春 春 春 春 春 春 春 春
 田舎の 春 春 春 春 春 春

木 宣 木 宣 木 宣 木 宣 木 宣
 木 宣 木 宣 木 宣 木 宣 木 宣

春也 桜の 吹流 雁の 送 寒さ
 大さくらの 吹流 雁もや 居るのふ
 走りとあふ 麻の 見すけけり
 蕨の物も通ふ 言 明と
 葉の秋のそと秋 白く 小葉 緑
 杉の木乃 枯り 月の 光 ぬる
 ちり 花を 春 春 春 春 春
 秋の夜も 春を 能 能 能 能 能
 春 春 春 春 春 春 春 春
 田舎の 春 春 春 春 春 春

木 宣 木 宣 木 宣 木 宣 木 宣
 木 宣 木 宣 木 宣 木 宣 木 宣

二三日清のるを就たりて
春中、くりあけしもそ記ふり
兼新うちとわうりたる丸木橋
よの 晴 梅 あり 春 菜 あり 志

五 春 枝 雅



すくは 晩 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕
若より 志 あり 春 菜 の 敷 あり
うち あり 志 あり 春 菜 の 敷 あり
くち けり 舞 あり 夜 あり 夕 あり
暮るし 標 の 陰 あり 夕 あり 夕 あり
暮るの 夕 あり 夕 あり 夕 あり 夕 あり

照 登 照 登 夜 照

すくは 舞 あり 舞 あり 舞 あり 舞 あり
あつ 相 伸 の 志 あり あり あり
まろく 降 あり 夕 あり 夕 あり 夕 あり
吹草 あり 夕 あり 夕 あり 夕 あり
すかを あり 夕 あり 夕 あり 夕 あり
あ丹 あり 夕 あり 夕 あり 夕 あり
すく 夕 あり 夕 あり 夕 あり 夕 あり
接ふ あり 夕 あり 夕 あり 夕 あり
春 菜 の 夕 あり 夕 あり 夕 あり
降 あり 夕 あり 夕 あり 夕 あり
すか あり 夕 あり 夕 あり 夕 あり
あつ あり 夕 あり 夕 あり 夕 あり

照 登 照 登 照 登 照 登 照 登 照 登

何事なき世なりし二月の入りし
 伊呂波表出でてわづる 秋き
 西院ありきよ友をるまありは
 存き先より 姑 ごとく
 老の味より新針すけり行をかし
 新つむく申す見えゆき 菜花
 入口の地面は青くかき竹也
 昔よりすめき花のうら 買
 隣より月月も船のありしと
 粟をむくく世に知れ 菜刀
 何事なき世に洗滌するはほりぬ
 園、隙とはよふぬ 待 後

付札 付札 付札 付札 付札 付札 付札 付札 付札

目よりも多しめのきり交茶の記
 ありきなり 抄りぬ 昔も入
 去りたりしありき茶のき 水す
 らしき 交りて 替りぬ 証看
 物よりなり 幸ありしとある 別中茶
 野をき 秋 函る 菖蒲をよふ
 うらうらう人若し伸えぬ 厄り骨子
 水すき 汲て ぬきき 小たぬい
 修りけりし ぬきき きの ねり ね
 ぬきき ぬきき 園 のうらうら
 ぬきき ぬききの ぬきき ぬきき
 ぬきき ぬきき ぬきき ぬきき

付札 付札 付札 付札 付札 付札 付札 付札 付札

中々秋のきひり来り上り
 あくくはくくくく丸片にす
 ちくくくくくく石を名も秋の屋
 壺つ時ハ新くくくく 壺
 あくくくくくくくくくくく
 くのぬくくくくくくくく
 全昆羅くくくくくくくく
 うくくくくくくくくくくく
 ちくくくくくくくくくくく
 清光くくくくくくくくく
 菊香くくくくくくくくく
 栴く栴くくくくくく

儀 札 儀 卍 儀 卍 儀 卍 儀 卍 儀 卍

沃多のふりくくくくくく
 くくくくくくくくくく
 月代くくくくくくくくく
 雁くくくくくくくくく
 大分くくくくくくくく
 かりくくくくくくくく
 くくくくくくくくくく
 御きくくくくくくく
 味くくくくくくくく
 かりくくくくくくく

儀 卍 儀 卍 儀 卍 儀 卍 儀 卍 儀 卍

七五 卍 卍

山水のきりぎりすに月哉
さしやあらんりけききにふく
地車のつらつらふかありのけを
おもひかきせり花の小くく
つらつらあひのふにこころ
粟のあしりのあし たふさ
手前若の筆書きをききし
境内分ハ町より毛 出ぬ
後さひも入るに子供を育あけ
漆のふきの大送る ちる
掃浴入ぬるふさる料 理有
ちるくく毛をさし月す丸

美礼 托儀 壽米 礼 儀 半 礼 儀 半 礼 儀 半 礼 儀 半

山梅高のあしりもあしり月
唐石のけり人のけりけり
田七のけりけり任文のけり
平やのけりけりけりけり
内獨居のけりけりけりけり
さしりけりけりけりけり
市本東のけりけりけりけり
帯のけりけりけりけり
すのけりけりけりけり
さかきけりけりけりけり
けりけりけりけりけり
けりけりけりけりけり

礼 儀 半 礼 儀 半 礼 儀 半 礼 儀 半 礼 儀 半 礼 儀 半

あそはすく月 異なる曲案、月と立
きりおともまよひ 川 稲
南買の餅番を弟と申息子
少く吃りまゝある たり あり
素ぬり廿六枚の月餅を
くはくは あげる 垣の冬瓜
やましくそん てる 稲 栗
干つてくすまき 熟しく あり
世あそく 尺剥ぬ 医者の餅つき
よるう 煮たり ぶ 餅多し あり
室をく 歩の 歩む 踏ますく たさ
森の あり 煮ぬ 組板

礼 儀 米 儀 礼 米 儀 礼 米 儀 礼

あそはすく 杖さくしん あり 也をすく
あそはすく 杖さくしん あり 也をすく
はくろひ 杖さくしん あり 也をすく
少く 煮ぬ あり 也をすく
神板の 異はくしん あり 也をすく
盆の あり あり あり あり あり
新く あり あり あり あり あり
医者 あり あり あり あり あり
筏の あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり

礼 儀 米 儀 礼 米 儀 礼 米 儀 礼

昔の如くしてあれもものなる政部
 異いれはあつてふも 橋す出
 通りりの幸ておぼえと 町の順
 内殿の伎ハいゝゝ氣は 入る
 後すゝの物さうもあは まき 春
 彦崎 船のたふにまゐる 於
 よるたひりきうつとさる 地まき
 藤を踏くお結のおきりあ
 月すはよまも 花枝の飛出あ
 蘇をさくちさす 雲のけ 酔
 春一ふきふつと一筆ぬくさり
 ちり仕入ちも 藤のふたは 橋

庭 儀 庭 儀 庭 儀 庭 儀 庭 儀 庭 儀 庭 儀

多助さう官りのはえさる 瘧 やこ
 初りく 海のこねる ち せ 庭 哉
 寺持の丹入のまぢう急目して
 葉乃けりう 能ふま 夕葉 庭

庭 儀 庭 儀

植をさるまはく ぼんやいゝ 能く作
 ちありけりま ありま 入 橋 出
 霧の何々見せし 霧 といゝ
 たつこゝあまの人の ち けりる
 経文のけりれ 持るむ 葉乃月
 奇実の板も 試ふ 秋 庭

庭 儀 庭 儀 庭 儀 庭 儀 庭 儀 庭 儀

ゆりやすけ千鶴やめく恒のうら
一の無表ハ根 結 芳 あり
標 托 け 素 しの 野 の 雨 を 休 め
駈 子 猪 くる 式 来 して 意 する
言 事 まで しく 吾 々の 三 氣 の 抄 とも
鮫 の 魚 出 尻 辨 け 月 月 月 月
ま へ た ぐ ぐ 枝 の と け の ぬ け ぐ ぐ
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
と 年 考 の す しく ち ち ち ち ち ち ち ち
お の 言 事 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
葉 枝 葉 枝 葉 枝 の け ち ち ち ち ち ち ち ち
や り ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
取 事 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
物 置 の ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
北 川 阻 け 合 敵 け ち ち ち ち ち ち
先 投 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
神 酒 の ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
席 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
月 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀

算ハヨク是作は咲キ其ノ
幸々々々ト 幸ひおぬ 考
手あふすは細口志入 ありかき
節所々々 陽々々 代 孫
伊勢録ハ法々々 ぬ直股あり
まやうまやうまやう 舞々々 新重
春いのハ世々々 第々々 冬 結
右第々々々々々 右 倉 進々々々
村本ハ先達山本 高重 善徳
あり々々 津々々 細 益 保々々々
舞の末々 法々々 法々々 ありあり
如く 法々 法々 法々 法々 法々 法々

堂 依 堂 依 堂 依 堂 依 堂 依 堂 依 堂 依

毎天の末末をま々々々 青の月
略の赤々々々 別々々 西 燈
栗柿法々々々 法々々 ありあり
雑費の多々々 川 裁 市
門口乃日御申刻々 ありあり
多々々 ゆく 氣々 舟 ありあり
蓬 ぬ 忘の 末々 末々 ありあり
葉々 梅 あり あり あり あり あり

堂 依 堂 依 堂 依 堂 依 堂 依 堂 依 堂 依

たきあのたきよ志のきけりたけりあはれきり然そてこ
くふあはれ人のたきをてらあて申すたきよ一
後の世たきよたきよはあはれ
天保八年三月二十一日 土納一具

春之部

且

たけりたけりたけりたけりたけりたけり
たけりたけりたけりたけりたけりたけり
たけりたけりたけりたけりたけりたけり
たけりたけりたけりたけりたけりたけり
たけりたけりたけりたけりたけりたけり
たけりたけりたけりたけりたけりたけり
たけりたけりたけりたけりたけりたけり
たけりたけりたけりたけりたけりたけり
たけりたけりたけりたけりたけりたけり
たけりたけりたけりたけりたけりたけり



たけりたけりたけりたけりたけりたけり
たけりたけりたけりたけりたけりたけり
たけりたけりたけりたけりたけりたけり
たけりたけりたけりたけりたけりたけり
たけりたけりたけりたけりたけりたけり
たけりたけりたけりたけりたけりたけり
たけりたけりたけりたけりたけりたけり
たけりたけりたけりたけりたけりたけり
たけりたけりたけりたけりたけりたけり
たけりたけりたけりたけりたけりたけり
たけりたけりたけりたけりたけりたけり

相 乃
丁 出
其 抄
氷 石
洒 入
味 牛
杜 薯
奈 嶋

同いほのゆくりをさほせおのほ
 手あかしのまゝにあつたせうりくち
 大い出りたるありきまゝなるをさす
 燈のさをせ入きつりもつて手すりか
 ぎりふのりあひしをすりぬきか
 唐燈をさすしらす羽ふのりさす
 下少也出物さるる 四男ふり
 まつるふれ大馬と寄やまのまん
 きふりし清りりまゝなる 惣もらふ
 清りゆり公家かたれはぬきまゝ
 かつ磨筆かたの具くありよりり
 春の鳥籠の肩もさるる身世俗 初秋

逸 一 炎 彼 流 芝 耕 市 仲 雀 勝 一 惟 護
 関 炎 徒 芝 世 丹 女 豊 在 者 草 物

楳

飛こつて楳を愛するも小落くぬ
 竹のほきや何のあつては楳ゆき
 さうくまのあらふおあり楳のそ
 意まのそのあら也字老乃たれ
 障りては楳きまは楳りりの白
 楳のサアアアアアアアアアア
 吹あまのサアアアアアアアア
 のうまははははははははははは
 と折とゆきとまやわり楳りては
 なるまゝくまは楳年にあらうた

其 一 六 由 六 一
 因 樓 々 楳 英 六 一
 一 楳 一 北

持つと折 去々之 折し 去々之 折し

曾見

抄

去々之 折し 去々之 折し 去々之 折し

相 陽

去々之 折し 去々之 折し 去々之 折し

之 九

去々之 折し 去々之 折し 去々之 折し

為 了

去々之 折し 去々之 折し 去々之 折し

白 外

去々之 折し 去々之 折し 去々之 折し

幻 芝

去々之 折し 去々之 折し 去々之 折し

不 轉

去々之 折し 去々之 折し 去々之 折し

字 々 々 飛 集

去々之 折し 去々之 折し 去々之 折し

黃 山

去々之 折し 去々之 折し 去々之 折し

秋 本

去々之 折し 去々之 折し 去々之 折し

里 崔

去々之 折し 去々之 折し 去々之 折し

北 洋

去々之 折し 去々之 折し 去々之 折し

丁 生

去々之 折し 去々之 折し 去々之 折し

大 女

去々之 折し 去々之 折し 去々之 折し

暮 年

去々之 折し 去々之 折し 去々之 折し

聖 母

去々之 折し 去々之 折し 去々之 折し

一 具

去々之 折し 去々之 折し 去々之 折し

禾 木

去々之 折し 去々之 折し 去々之 折し

茶 靜

去々之 折し 去々之 折し 去々之 折し

鳥 義

去々之 折し 去々之 折し 去々之 折し

流 芝

去々之 折し 去々之 折し 去々之 折し

白 紀

舞のゆききく人のくく少少可なり
たふ吹く外のけあひせりけり
四りくくく夜らのあひそまのう
くひまのくくく夜あり美のあ
柔き那一のあひあひる夜の梅なり
ちくくく梅や風吹くくくす
きまけくくくのあひあひ花さかり
たふのあひあひを あひあひ明なり

秋あひ

海も出くくくけくくく
くくく人のあひのあひのあひ

白城 子 菊年 本地 十圃 松竹 房了 秀 漢吉

葉のあひ 露のけりや くくく
くくく けりや けりや
わを 出くくくくくくく
のあひのあひのあひのあひのあひ
梅くくくくくくくくくくく
月くくくくくくくくくくく
庭のあひのあひのあひのあひのあひ
くくくくくくくくくくくく
あひくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく
あひくくくくくくくくくくく

道等 候き 下阿 壯登 首節 宇弘 醉車 相雨 梅雪

夷則 善政

あさささささささささささささささささささささささ
ささささささささささささささささささささささ
ささささささささささささささささささささささ
ささささささささささささささささささささささ
ささささささささささささささささささささささ
ささささささささささささささささささささささ
ささささささささささささささささささささささ
ささささささささささささささささささささささ
ささささささささささささささささささささささ
ささささささささささささささささささささささ

梅令
夜照
真澄
長樂
西馬
蒼札
永保
慈亮
心阿
千瑞
一為
涼茶

ささささささささささささささささささささささ
ささささささささささささささささささささささ
ささささささささささささささささささささささ
ささささささささささささささささささささささ
ささささささささささささささささささささささ
ささささささささささささささささささささささ
ささささささささささささささささささささささ
ささささささささささささささささささささささ
ささささささささささささささささささささささ
ささささささささささささささささささささささ

牧之
夕山
南南
涉未
雪紫
一鳳
相空
常炭
可考
如半
不圃
圭布

第のふりくはるもせしやあはる一角
 終子啼や〜〜〜〜〜
 糸文り知らるる〜〜〜〜〜
 月七十月〜〜〜〜〜
 月の〜〜〜〜〜
 西集の〜〜〜〜〜
 也皇の〜〜〜〜〜
 太拳の〜〜〜〜〜
 露泉の〜〜〜〜〜
 乙東の〜〜〜〜〜
 西山の〜〜〜〜〜
 莖水の〜〜〜〜〜

閑志
 若月
 月ふる
 西集
 也皇
 太拳
 露泉
 乙東
 西山
 莖水

こらまを〜〜〜〜〜
 是も〜〜〜〜〜
 海あり〜〜〜〜〜
 た〜〜〜〜〜
 軍勢の〜〜〜〜〜
 一余〜〜〜〜〜
 白ゆ〜〜〜〜〜
 晴眼〜〜〜〜〜
 さら〜〜〜〜〜
 太風〜〜〜〜〜
 は〜〜〜〜〜
 武渡〜〜〜〜〜

奇嶂
 蕉水
 大枳
 露玉
 山骨
 素亭
 護物
 真喬
 槐堂
 秀水
 一基
 朝翠

音夏

水きりさきの字にそと青きとそと
古き色とそとそとそと川のありけり
侍と古ののりそとそとそとそとそと
持と白乃社とそとそとそとそとそと
終大のありけりそとけりそとそとそと
那りそとそとそとそとそとそとそと

為人
菊
江月
笙吏
唯草

杜鰐

そとそとそとそとそとそとそとそと
そとそとそとそとそとそとそとそと
そとそとそとそとそとそとそとそと

山馬

おとそとそとそとそとそとそとそと
そとそとそとそとそとそとそとそと
そとそとそとそとそとそとそとそと
そとそとそとそとそとそとそとそと
そとそとそとそとそとそとそとそと
そとそとそとそとそとそとそとそと
そとそとそとそとそとそとそとそと

静嘉
大松
陸月
大翠
素者
孤月
松竹

歌あはれ

おとそとそとそとそとそとそとそと
そとそとそとそとそとそとそとそと
そとそとそとそとそとそとそとそと
そとそとそとそとそとそとそとそと

一兆
英山

一二丁末を清める牡丹の那
 月夜
 何れも其志も其子の持し處と云
 之葛
 何れも其志も其子の持し處と云
 若水
 活るるも其志も其子の持し處と云
 竹承
 氏神の御りりある也云云
 左古
 平附大の活余殺する指せ哉
 南浦
 う知つたも云や桐田のあやう水
 竹好
 本母も云云ゆひの先ありけり子
 白龜
 飛けりる持し其子の先門向う子
 未木
 葉花の先海流るる其子向う子
 葛古
 吳元一も云云指せ其志も其子の持し處と云
 史涼

花の持し其志も其子の持し處と云
 晚
 春秋也其志も其子の持し處と云
 松梨
 山蘭のあやう其志も其子の持し處と云
 大極
 是れも其志も其子の持し處と云
 節之
 中も其志も其子の持し處と云
 在尔
 葉舟也其志も其子の持し處と云
 得
 活るるも其志も其子の持し處と云
 小圃
 是れも其志も其子の持し處と云
 梅塙
 山も其志も其子の持し處と云
 曠
 苗も其志も其子の持し處と云
 草地
 青

四十二

降生... 萬全
 野... 雪
 麦... 芳英
 卯... 菜
 卯... 得
 萬... 株
 元... 小
 鱈... 鱈
 蓬... 蓬

萬全
 雪
 芳英
 菜
 得
 株
 小
 鱈
 蓬

通... 茶
 唐... 德
 唐... 島
 唐... 石
 唐... 益
 唐... 坑
 唐... 松
 唐... 因
 唐... 五
 唐... 呼
 唐... 奇

茶
 德
 島
 石
 益
 坑
 松
 因
 五
 呼
 奇

いふやうな人々を驚かすのやうに
驚かすやうな人々を驚かすのやうに
驚かすやうな人々を驚かすのやうに
驚かすやうな人々を驚かすのやうに
驚かすやうな人々を驚かすのやうに
驚かすやうな人々を驚かすのやうに
驚かすやうな人々を驚かすのやうに
驚かすやうな人々を驚かすのやうに
驚かすやうな人々を驚かすのやうに
驚かすやうな人々を驚かすのやうに

南々
五渡
元人
其年
徐全
可大
石應
雨邨
眉山
棉岳
宇喬
也

五月五日や 掃部子かゝる 吉原
けいけい やとん 吉原の藤
乙子や 掃部子かゝる 相のたを
吉原の 掃部子かゝる 相のたを
懐不や 吉原の 掃部子かゝる
夕立也 吉原の 掃部子かゝる
玄水具 吉原の 掃部子かゝる
縁のたを 吉原の 掃部子かゝる
門田ハ 吉原の 掃部子かゝる
市の子や 吉原の 掃部子かゝる
郭のたを 吉原の 掃部子かゝる

今
つゝの
貞松
耕雲
奉泉
白桂
啄蛛
峰路
根岳
鞠川
綿岳
枝月

のしぬ付何事又あるもあはれ
 ねねおとさるるゆりのそと
 日のぬいよあやめかみふし
 けさる身もゆゆやあはれ
 かげ月の水もつらたふ
 せぬまのぬいよあはれ
 夢あつたのぬいよあはれ
 掃済してまよふはあはれ
 夏北けももあはれ

柳白
 孤末
 業
 柳絲
 月郎
 膽州
 小圃
 仙尼
 護物

すりとの虎をたづむ様

小圃

はつたのはつた
 ねねおとさるる
 日のぬいよあやめ
 けさる身もゆゆや
 かげ月の水もつら
 せぬまのぬいよあ
 夢あつたのぬいよ
 掃済してまよふは
 夏北けももあはれ

大いに秋風四ののこりてはまじくもりのさへたれり
 きもむさめのおちてゆくあまきしり なるも程海を渡る
 ありしをせ ありや 夢ある行共は春さすくぬ
 不祥の氣をいへも楚人を禁たてあるは海天子
 ある親ま極を高い行 とも嘆きあり 悔く虎の
 けりぬらうき かなあまのさるるさの彼へ 振り威
 を借す先きうのやうに 有物あるさ 秋あるさすれ
 ぬはらうき たるものさあまぬほえり 秋あるさすれ
 かう中れおそる 秋まの 秋すかか けりう けりまの
 きり 腕の中にあつてもおろさるる けり けり
 さるるのまのたみ せんようんたさ けり けり
 けり けり けり けり けり けり

秋之部 数白

立條

昔より買ふまはあつて けり けり けり
 さり 秋や 温むるのあまきしり なるも程海を渡る
 秋たつや けり けり けり けり けり けり
 秋片のり なるも程海を渡る
 連のまの 寺子もけり 也 けり けり けり
 けり けり けり けり けり けり
 二寸清水のあまきしり なるも程海を渡る
 秋のり や 丈毛 なるも程海を渡る

得菴 携月 弄化 一具 松價 松像 荻枕 桐兩

月の巻巻をさるる音の聞えたり
 庭よりある水の音もあはれり
 此辭ははるる月を吟ん月を
 若依をさるる音もあはれり
 若月ありちるる音もあはれり
 亦さるる月の音もあはれり
 此月やとちるる音もあはれり
 名月やとちるる音もあはれり
 月飛と若月ありちるる音もあはれり
 若月ありちるる音もあはれり
 若月ありちるる音もあはれり

一 株
 府 尺
 吟 宴
 月 貨
 閑 那
 西 馬
 奇 子
 由 盤
 氷 松
 林 堂

若月ありちるる音もあはれり
 若月ありちるる音もあはれり
 若月ありちるる音もあはれり
 若月ありちるる音もあはれり
 若月ありちるる音もあはれり
 若月ありちるる音もあはれり
 若月ありちるる音もあはれり
 若月ありちるる音もあはれり
 若月ありちるる音もあはれり
 若月ありちるる音もあはれり

一 芝
 碧 水
 玉 笠
 関 々
 太 老
 池 崎

若月ありちるる音

若月ありちるる音もあはれり
 若月ありちるる音もあはれり
 若月ありちるる音もあはれり
 若月ありちるる音もあはれり
 若月ありちるる音もあはれり
 若月ありちるる音もあはれり
 若月ありちるる音もあはれり
 若月ありちるる音もあはれり
 若月ありちるる音もあはれり
 若月ありちるる音もあはれり

林 曹
 廣 吉
 阿 字
 鳳 朗

倒るる毛走りて田知するよまらふ
弟りく寸中そりりしはす徳の
ゆきあふくくふ穂の出るる昔く

カ枯海村

洞の月をもち也文りく何交り
水際よりうけのふれとせら来うふ
世はた於ぬふかきやうき葉の花
葉るるくい空をりあふぬり子系
淡るる花の里より新すんては月
雲海乃高きくや葉花屋うは
一のの古の古あり葉葉の香
勢と七見くまきとけうはなは中

浮石
碧池
世改

乃中
吐山
風也
念用
草季
石膜
香老
湖山

ゆきある月りのるやを空り
花つち花際ありまふかぬうり色
かき堀へ子のはきせは葉葉うあ
一葉来る花ちちあは付の標者
花葉合すくはるさたつうねはち
舟と来り葉兒もあり葉の香
ゆき月の果花うらうら葉履の枝
見くく冬く仲くまを庭にすきり
新也也古のよありのる湖の水
まきまゆし葉かきうらりの月高
尾考のまきくはゆり勢下し平
雀下りて旭まきゆし葉のゆ

太桶
西里
松西
北秀
奉泉
太管
蕪白
和戎
斗進
洞天
豊也
一具

送り大生仕暮れてたけ川のてこ
おふのきとあうぬ天の川
ふ二の精気海へ晴りてきり
ありぬりてりあふ花のふきうふ
海よりゆくへも河もや秋のふき
報けけし舟もあけりてりきりくき
喜んぬのふぬきりてりぬきり
第一抱きてりてりぬきり
又ありて葉あもあも圃入気宇
ふりてりてりてりてりてり
穉子あもてりてりてりてり
形秋也し只てりあもてり

竹溪 豊馬 一橋 子旌 魚明 逸園 麟堂 田川 麻葉 木葉 阿川 兀人

舟もあもてりてりてり
葉のてりてりてり
酒花もあもてりてり
あもてりてりてり
惜ぬりのさつてりてり
よりあもてりてり
若もあもてりてり
草也すたてりてり
弓きりてりてり
所へてりてり
葉もてりてり
大木の中も枝也すりてり

若之 永保 一珠 損女 松竹 若水 立角 兩津 弟久 抱保 棠切

草花也小く可愛花の景津る人
 此こそ草花也ちの心あき花也哉
 海菰の明く青くはあひく
 土の荒り物情は灯のうつりり
 子のまとのまき情ありある本まみ
 輕抱く人きりまきすたねの那
 花に平よりまきれてあるや世に花
 あは草花秋もあつた弟也世に花
 うらはやくた草花のわすれなき
 夜も夜もあはのまきすま草花の
 吟あきのす也まき者のたりに
 聲りけよからむも身に都花

高車 有月 方花 米花 濱吉 扇和 文玉 胤月 壺子 左谷

海の花あはれ可なり
 草花の心あき花也哉
 海菰の明く青くはあひく
 土の荒り物情は灯のうつりり
 子のまとのまき情ありある本まみ
 輕抱く人きりまきすたねの那
 花に平よりまきれてあるや世に花
 あは草花秋もあつた弟也世に花
 うらはやくた草花のわすれなき
 夜も夜もあはのまきすま草花の
 吟あきのす也まき者のたりに
 聲りけよからむも身に都花

青花 蓮宇 方母 正抄 一耕 春音 挹芝 姐山 葛山 沙路 芥芝 大魯

七部 九日

了もあふありし九月の夢ゆく丸
巻くもあふありし九月の夢ゆく丸
あふありし九月の夢ゆく丸
あふありし九月の夢ゆく丸
あふありし九月の夢ゆく丸
あふありし九月の夢ゆく丸
あふありし九月の夢ゆく丸
あふありし九月の夢ゆく丸
あふありし九月の夢ゆく丸
あふありし九月の夢ゆく丸

由指 一楸 一具 千粒 四明 一兆 助宜 乙女 無丸 於女 湖山

冬 之 部 叢 白

豐

作一のまはうりるるり 浮表
あふありし九月の夢ゆく丸
あふありし九月の夢ゆく丸
あふありし九月の夢ゆく丸
あふありし九月の夢ゆく丸
あふありし九月の夢ゆく丸
あふありし九月の夢ゆく丸
あふありし九月の夢ゆく丸
あふありし九月の夢ゆく丸
あふありし九月の夢ゆく丸
あふありし九月の夢ゆく丸

若非 皀豐 万穀 丸角 一様 水竹 由整 芝石 菜西 首見

七部 加らるる

あつと糸細とてううりきよのはりりり
ままひ新のおうろくろく小巻るん
年部くちきまの即若也ま丸け
中たきかきまの海舟

寸感
千條
山台
山馬

野々子守

屋歩る日如区界るやきき巻
巻けんり氣性そそくへたくの
しら氷柄拍子付をとりとり
節と歌の惹きき母すくつくけり
おと鹿子をききき也 枇杷の
何しら歌具たりとる松の物如那

而后
茂復
音柳
松白
翠川

ちよものちよりて遠入巨魁基
母あららしり葉のぬり十お和
海切ハあたる弟うや細豆付
松果一蓮の秋切ある鳥可動
初うきのりるたうや冬木立
ねうかあるや源音の葉区り
懐しかりまも底すや冬 松
大松引一葉そをふそ記りり
吹よとのあお葉葉もあやうりり
十良やまもきまそ松る松の月
指すもや砕くもま交りりり
葉そから指吹葉まあお葉

荷事
も斐
赤丈
堂奥
千崖
野堂
儀瓜
比古
之桂
可石
青圃
草見

吾輩もふりく 彦冠やうへう
りくる船のたをらふ沖の本の葉共
ア年の一布の海りのまねはるはる
粉のまじりて一舟出馬る折舟可未
去き返すはくせやあゝう海に
脊のたをらふ人の運るや冬り
新ももまじりてはあゝあゝあゝ
炭火く折るもあゝあゝ給仕う未
去き返すはくせやあゝう海に
去き返すはくせやあゝう海に
去き返すはくせやあゝう海に
去き返すはくせやあゝう海に

瀧山 大老 閑斎 菅城 文例 葛山 山谷 蘆牙 枕流 露泉 千秋 古眺

子侍して舟りのまねはるはる
去き返すはくせやあゝう海に
去き返すはくせやあゝう海に
去き返すはくせやあゝう海に
去き返すはくせやあゝう海に
去き返すはくせやあゝう海に
去き返すはくせやあゝう海に
去き返すはくせやあゝう海に
去き返すはくせやあゝう海に
去き返すはくせやあゝう海に
去き返すはくせやあゝう海に
去き返すはくせやあゝう海に

一字 有来 妙子 三九 漣月 呼生 耕雪女 士馬 詠帰 鼎湖 我堯

弟のふまをばしりてちてふれ非の守
 勢中めり子と多頻そて大指引
 ぬけに世と相違あてたき事おれ
 幸いなりや、何人くまらるれい
 度りういおり入るや、陽り茶
 院池の掃さしてある時多ふ
 常よりなる本は留も言、量め
 山々の桂又より仰く、小春、平
 あり、度り、虎より仰く、池の軒
 あり、しや、久そりる、池の軒
 ひん、り、新よりり、り、田の、女、

俤兄
 眉岳
 五版
 虚白
 西阿
 初六
 真插
 素如
 百五
 廿

歳暮

秋ひくも、冬より、と、衣、さ、り
 けく、美、の、花、の、色、も、な、り、け、り
 縁、特、に、夜、の、明、の、花、の、軒、り、那
 人、強、た、や、り、思、の、や、し、は、り、ひ
 糖、押、ハ、ミ、あ、り、骨、ま、り、也、ち、う、り、ぬ
 子、女、の、さ、る、屋、の、門、也、し、平、の、茶

由哲
 逸閑
 左閑
 如閑
 指閑
 小圃
 千軌

跋

菊形花... 下丁乃... 我偶四川の... 旅中... 思... 武江... 先...

山陰... 西野... 山陰... 西野... 山陰... 西野... 山陰... 西野...

十言
一
酒より一庚申の辰の辰と何れんかあるも
めりき下子註の毎とまをあらくと鼎門
勝成よせくと何階の豊白連白と備し
此きおききとちんりどあていふと使う包
よと一帳成りて日ぬの人子便あふ
きんて入取某元とれ今七部既く
様ありと書きおのけいふよと遊しとま
是に跋書しよとまはしきまもまをいふに

其の中あは名成得しと素何またりと
舟と船成笑をぬれりと傍野の藤
白ひと年ととれ素とせくと行くとん
殊とあふくとととと遠とと天とと地と
用ととととととととととととととと
いふとととととととととととととと
かふとととととととととととととと
見とととととととととととととと

此書也其の旨を成すこと
 たりともその道にやむこと
 ありきや筆を以てしん
 了馬
 一編の
 北

江戸本石町十軒店萬笈堂
英大助 同平吉
 藏板俳書目錄

類題之部

俳諧幾句五百題 春秋庵白雄房撰 小本二冊

同 新五百題 田喜庵獲物撰 中本二冊

同 新々五百題 全撰 全二冊

同 名所千題集 全撰 全三冊

同 今人東風流 洞海舎涼谷撰 具庵一具校 全二冊

同 十万句集 全撰 全校 全四冊

同 續故人五百題 一具庵一具撰 小本一冊

同 類聚 八采園寥松撰 中本二冊

俳諧今人發句集 永水園校輯

俳諧發句類題 全一册

同 古今異 蕪菴蟹守撰

四季護句帳

白乳七五三 卅九大人輯

俳諧發句新類題 六合庵万里編

○句集之部

嵐雪句集 一称玄峰集

其角句集 坎窩久藏撰

蓼太句集

吏登句集

巢兆句集

完來護句集

梅翁宗因護句集

太無護句集

存義護句集

獅子眠護句集

柳居護句集

櫻秋瓶 甲斐州丸集
葛里句集 在句の多

中本二册

全一册

全二册

全一册

中本二册

全二册

小本二册

全六册

全一册

全二册

全一册

全二册

全一册

全一册

全一册

護物七部集

小本二冊

乙二七部集

全二冊

○季寄之部

繆の采 葎聖庵北元著

小本二冊

俳諧手挑燈 一名俳諧初心手引草

中本二冊

同 掌中小本

全一冊

俳諧四季名寄 季考大成の事
且名所を補綴

全二冊

俳諧袖鏡

寸珠一冊

季寄便覽

一枚摺

〇〇〇〇

横本一冊

俳諧通言

小本一冊

○文藝之部

新編俳諧文集 あ時字まのり
文とつらむ

全一冊

俳諧變躰一覽

兩面一枚摺

袖定規 表俳諧定座変体之因

七於集その再古指他袖の變化ある座を至座五月合
五於集の自立と目見やをわすむ

俳諧 自初編今天保迄至凡三千編

○掌中十珍物 編教にあま付合う供
集州とまつく

掌中五百題初編

集州初編

同 三編

同 三編

同 三編

同 芭蕉叢句集

同 其角叢句集初編

同 二編

同 三編

同 嵐雪叢句集初編

同 二編

同 乙由叢句集

同 蓼太叢句集初編

集州 二編

集州 二編

集州 四編

集州 五編

集州 六編

集州 七編

集州 八編

集州 九編

集州 十編

集州 十一編

集州 十二編

集州 十三編

集州 十四編

集州 十五編

集州 十六編

同 二編

同 新五百題初編

同 二編

同 三編

同 古今撰

猶追々出刻

○假名遣物目錄

万葉用字格 春登上人撰

音便假字格 春登上人撰

万葉集と古今集との関係... (vertical text)

本州

今古假字格 高井八穂大人撰

古今の字を合を一目に示す

對照假字格 長野英波西大人撰

上二行

挑隣大人開

俳諧田舎の目

田喜庵輯

あ 廿五一本

禾木園輯

今人附合集

全

芳草集

俳諧發向故人五百題

松露庵撰

同 今人五百題

全

全一冊

全

全一冊

小本一冊

全一冊

横本

全四冊

全

全一冊

小本

全一冊

全

全

吳市阿賀町原 九九

下垣内和人

